

日本共産党 粕江市気候危機打開・SDGs
まちづくり推進室長（市議予定候補）

重国たけし

矢野市民派市政の到達点が崩されつつあります。
市民が主役の政治の根幹「情報共有」「市民参加と協働」の後退を許さず、「住むことに誇りを感じられる街」めざして力いっぱいがんばります。



住みよく・市民（ひと）輝く粕江へもっしー！

【推薦】田辺良彦（日本共産党東京都委員長、元粕江市議会副議長）



人間の尊厳を守る政治、平和や気候変動対策なども発信する市政実現へ。情熱と行動力の重国たけしさんに期待します。 元粕江市長 矢野ゆたか

市民の生きづらさに寄り添う市政へ
だれひとり取り残さない、希望につながる政治を
地球規模で考え、足元から実践

地元から、党派を超えて私も応援しています

- 【和泉本町1・2丁目】
中川十郎（名古屋大学特任教授）
増田善信（元気象庁気象研究所研究室長）
立川節子（元市民センターを考える市民の会セカンドステージ代表）
原義久／根本美津子
- 【岩戸北1・2丁目】
松本仁（理学療法士）
林健彦（ちよつと待って図書館移転！連絡会こまえ参加者）
- 【東野川】
角田益雄（税理士）
今野玲子／前土肥三枝子
沢井康真（ごんかつ澤井店主）
和田哲子（元粕江市市民参加と市民協働に関する審議会委員）
三浦香（ケアマネジャー）

主な活動地域
東野川全域、岩戸北1・2丁目、和泉本町1丁目（1〜34）・2丁目

民報こまえ

発行：日本共産党粕江市委員会 岩戸北1-10-6甲武ビル1階 3488-2977
2023年3・4月号外 日本共産党粕江市委員会は見解を発表しました。

子どもたちの未来をはぐくむ 学校給食無償化の実現を

（聞き手：山本さん（中学生の子育て中、東野川在住））
重国さんは、小中学校の給食費無償化を訴えていますね。

重国 ええ、どうしても実現させたい政策です。憲法には「義務教育は無償」とあり、給食は学校給食法で「食育推進の場」とあるように教育の一環です。その理念から言えば本来無償化すべきですが、いまは食料費等を徴収しています。諸物価が高騰しているいま、子育て世代の負担軽減の視点からも、無償化は必要です。



●実現しますか

重国・・すでに全国250を超える市町村が無償化し、都内でも世田谷区など8区が実施を表明（2月19日現在）しています。粕江市でも、共産党市議会が学校給食無償化の予算要望を市長に届け、市民団体からも署名とともに要望書が出されています。そうしたもとで2023年度予算案には、第3子以降を無償化する予算が盛り込まれました。第一

歩ですが、対象はほんの一部（約140世帯）にとどまっています。すべての小中学生に広げていくことが必要です。

●粕江は財政が厳しいのでは…

重国・・今はそんなことありません。矢野市民派市政の時、市民ぐるみの行革を成功させて、莫大にあつた借金の返済を進めました。21年度決算では23億円の黒字を出し、市の貯金（基金）は約65億円になると見込まれています。現在は財政にゆとりがあります。給食費の無料化は2億4250万円で実現できるので、あとは市長の政治決断だけです。

●わかりました。市長に決断させるには、市民の切実な声をもっと市に届けることが大切ですね。

重国・・私はその先頭に立つてがんばります。



粕江のスポーツ・パラスポーツの発展へ、重国たけしさんに期待します。



小林秀一氏
元ボクシング
日本ウェルター級王者



松本裕子氏
ボッチャ選手・第18回日本選手権
BC1クラス3位
岩戸北2丁目在住

重国たけしの「なんでも相談」

自宅 ▶ 東野川3丁目
携帯 ▶ 090-1775-9052
メール ▶ sigeny@nifty.com
H P ▶ <https://jcp-net.info/komaekankyomatiken/>



【重国たけし略歴】●1970年山口県生まれ。埼玉大学工学部環境化学工学科卒●「しんぶん赤旗」記者をへて地方政治の専門誌「議会と自治体」編集部勤務24年●「粕江市市民センターを考える市民の会」世話人、粕江市ごみ半減推進審議会、人権尊重推進基本条例検討委員会委員、ハイタウン団地管理組合役員など歴任●現在、共生食堂「こはん+居場所おかえり」スタッフ、豊かな粕江をつくる市民の会世話人●趣味は自然散策と溪流釣り、粕江の果実写真撮影

市民が主役の市民派市政を築きます
日本共産党の議席増4→5で、暮らし応援第一の粕江へ

重国たけしは実現めざし全力投球します

お約束 1

学校給食費の全員無償化

4面をご覧ください。一部助成実現を足がかりに最重点で取り組みます。

お約束 2

18歳までの医療費完全無償化

長年の日本共産党の国や都に対する運動で、無償化制度は前進してきました。23区並みに所得制限撤廃へ、皆さんとともにがんばります。

お約束 3

気候危機打開を政策決定の最上位に ——市担当部署の創設

世界では、気候変動にともなう災害の激化や海面上昇で深刻な被害が相次いでいます。地球規模で急ぎ取り組まなくてはなりません。気候危機打開を政策決定に際し最上位の一つに位置づけると

もに、担当部署をつくらせ、2030年CO₂60%以上削減を市民協働で強力に推進します。省エネ・断熱リフォームや太陽光発電導入支援を強めます。

お約束 4

市政運営へのチェック

松原市政のもとで、市議会のチェック機能が弱まっています。ある与党議員は、図書館分割・移転問題で条例違反を追究した共産党の質問を、「不毛な議論」とさえ公言しました。議員が行政のチェックを怠っては、腐敗や私物化、ワンマン市政が生まれてしまいます。狛江ではかつて市長が、バカラとばく(石井三雄市長84〜96年)や、

セクハラ・パワハラ行為(高橋都彦市長12〜18年)によって、任期中で辞職しています。議会と市民のチェックが緩めば、こうした市政が復活しかねません。市長に付度(そんたく)することなく、緊張感ある議会にするため全力を尽くします。



くらしと福祉・健康を守り、次世代への継承のために

- 諸物価高騰から市民生活を守るために、市独自の電気・ガス代等負担軽減策を
- 介護・国保税の負担増をストップし、国保税均等割廃止など軽減策の実施を
- 補聴器購入への補助制度創設を
- 子ども食堂・フードバンク・困窮学生等への食料支援とその拡大を
- 学童クラブなど放課後の子どもの居場所づくり拡充を
- ひとり親家庭・若者への家賃補助を
- ハイタウン—喜多見駅間バスの減便復活、こまバス双方向運行の実現を
- 公道・緑道等への腰かけスペースの設置促進を
- 買い物支援のための移動販売車導入への支援を
- 障がい者福祉充実、ひきこもり支援を

人間の尊厳と市民文化を大切に、平和・地球環境問題を発信する市民(ひと)輝くまちへ

- 人権条例を理念に終わらせず、ジェンダー平等、ハラスメント撲滅に全力を
- 図書館の分割・移転をストップし、現所在地での拡充を
- 水と緑のまちづくり、都市農業振興、災害対策強化、公契約条例制定を
- プラスチック分別回収を機に、ごみ減量促進と大量生産・廃棄社会の脱却を
- 駅周辺等の再開発計画は、徹底した情報公開と市民参加・協働で
- 平和フェスタを市の共催事業として復活させ、反戦・平和への発信を

国会・都議会・各自治体の共産党議員団と連携し、市民の願いを国や都へ

- 大軍拡・増税ストップ、核兵器禁止条約への参加など真剣に平和外交の推進を
- 開発優先から「持続する社会」へ、政治経済を大転換させるSDGs(持続可能な発展目標)達成の推進を。原発ゼロの社会の実現を
- 内部留保課税による賃上げ、最賃1500円を政治の責任で実現。消費税減税とインボイスの導入中止、生活・生業支援策の継続・拡充を
- コロナ感染を軽視せず危機管理に努めること。東京都は公的病院統廃合計画を中止し、狛江調布保健所の復活を
- 多摩地域の地下水・水道水の有機フッ素化合物(PFAS)汚染に関し、直ちに原因究明と対策を

気候危機打開へ、狛江の地から発信を

気候危機打開に関わる全国の自治体・住民の取り組みにとても詳しい重国さん。私も『議会と自治体』誌への執筆では、頼りにした編集者です。今度は狛江の地からCO₂排出ゼロへ、活躍を期待しています。

(党原発)気候変動・エネルギー問題対策委員会責任者
日本共産党衆議院議員 笠井亮



市民生活を守る仕事にうってつけの人

ごみ問題の調査など仕事上のお付き合いは25年。勉強家で常に新しいテーマへ挑戦する姿勢に、いつも感心しています。誠実で穏やかな人柄と、ねばり強い行動力は、市民のいのちと暮らしを守る仕事にうってつけです。

元(衆・参)国会議員 岩佐恵美



全国的な視野で環境問題に一貫してとり組み、 狛江市でも多彩な市民運動に参加

気候危機打開、暮らし平和、人権守る



日本共産党 狛江市気候危機打開・SDG推進室長

重国たけし

いげくに 毅

重国たけしの歩んだ道

方をしたいと、21歳（大学3年生）の時に日本共産党に入党しました。

●「しんぶん赤旗」記者として

大学卒業後は日本共産党の「しんぶん赤旗」の学術・文化部記者となり、脳科学、素粒子科学など自然科学の最前線で活躍されている研究者や、諫早湾干拓工事（有明海）の問題点を指摘する学者、また、釣りキチ三平の作者、矢口高雄さんなども取材してきました。

●住民要求実現を応援する「議会と自治体」誌へ

1998年から、自治体行政の民主化、住民要求の実現を目的として発行されている雑誌『議会と自治体』編集部に異動し、編集者として、環境問題や防災、産業振興などで活躍する地方議員や行政職員・業者・農民・住民運動を取り上げた記事を依頼・執筆し、研究者の論文掲載などにたずさわってきました。



千葉県匝瑳市のソーラーシェアリングを視察

●「ごみ半減、市民センター改修問題」に力をつくす

日本共産党員市長だった矢野ゆたか市政（1996年～2012年）の「市民が主人公」のまちづくりの魅力を感じ2000年に狛江市に移住しました。以来、狛江市の「ごみ半減推進審議会」の委員として、市民参加でのごみの徹底した発生抑制、



●自然豊かなまちの農家で



1970年、山口県徳山市（現・周南市）の農家に生まれました。実家は、「フクリ、ミツバチなども飼い、春のタケノコ掘りや田植え、秋の稲刈り、味噌づくりや餅つきなどは一家総出で行ないました。近所の川ではウナギも獲れ、一面ヘイケボタルが飛び交っていました。小学生のときに左目をケガで痛め、視力がほとんどなくなりました。県立徳山高校に進学、登山部に所属し団体競技のメンバーとして中国大会で優勝した経験もあります。渓流釣りや自然散策が趣味の一つです。

●環境問題がライフワーク

実家に近い瀬戸内沿岸には化学工業等のコンビナートがあることも関係し、全国に公害で理不尽に苦しめられている人々が存在することに関心をもち、その解決の道を学びたいと埼玉大学工学部の環境化学工学科に進学しました。環境問題を考えるサークルに参加し、全国の熱い思いをもった学生と交流しました。この時の友人には今、環境NGOや市民団体などで活躍する人も少なくありません（その一人は、現杉並区長の岸本さとしさんと元同僚）。

●「平和と社会進歩」めざし日本共産党に入党

学生時代は、広く社会のことを学びたいと社会科学を学ぶサークルにも参加。また全国学生寮自治会連合（全寮連）の委員長をつとめ、教育の機会均等や民主主義、学問の自由を守る運動でもとりくみました。そのなかで、平和と社会進歩をめざし、自らの成長を重ね合わせる生き

プラスチックの削減・資源化などにとりくんできました。気候危機非常事態宣言を行なう約五百人の賛同者とともに市に求めるとりくみを進めました。「市民センター（公民館・図書館）を考える市民の会」の世話人として、市と市民の協働事業として「市民提案書」の作成に参加。いま、中央図書館の分割移転という「市民提案書」を大きく逸脱した市の「市民センター等改修基本方針」の見直しを求めて奮闘しています。

●人権尊重条例検討委で提案

高橋前市長のセクハラ事件の反省を受けて設置された市の「人権尊重基本条例検討委員会」にも参加。「市民の生きづらさに行政が向き合うことが大切」と提案。条例の名称に「人権を尊重しみんなが生きやすい狛江をつくる基本条例」という形でとり入れられました。

●子ども食堂のお手伝い

すべての人が居場所と出番を得て活躍できる、それぞれの条件に合わせて成長できる社会の実現へ、精神障害者団体の活動や学習会にも参加。共生食堂「こはんと居場所おかえり」でも設立当初からお手伝いをしていきます。

●ハイタウン管理組合で

居住するマンション（ハイタウン）では、管理組合役員として広報誌の充実や環境衛生委員長としてマンションの公園でのガーデニング、ごみ問題のとりくみも行なってきました。

●新しい市民派市政実現、未来への展望を拓く

いま、狛江市政の民主的発展と新しい市民派市政の実現のために、また大軍拡と大増税「戦争できる国」に突き進む自公政治を終わらせ、暮らしと平和を守る新しい社会、未来への展望を切り拓くため、先頭に立ち奮闘していきます。